

3 グラフィックシラバスの作成取組について

本校では、生徒たちが見通しをもって学習に取り組み、自己評価を踏まえて効果的に改善を図ることができるようになる1つの方法として「グラフィックシラバス」に取り組んでいます。「グラフィックシラバス（図示化されたシラバス）」とは、授業における重要概念間の系統性・関係性を図示化したフローチャートやダイアグラムのことを言います。コンセプト・マップ（概念地図法）と呼ばれる学習指導法をシラバスに応用したものです。教員にとっては、知識の組織化・構造化を促進するのに有効であり、学習者にとっては、注意喚起、概念の理解促進、記憶の定着のために有効とされています。

出典：「インタラクティブ・ティーチングーアクティブ・ラーニングを促す授業づくり」
編著栗田佳代子、日本教育研究イノベーションセンター、河合出版 P79～を抜粋

年度当初の授業で、グラフィックシラバスを提示しながら授業を説明することによって、生徒は授業全体を俯瞰することができますので、今年度はこれまで作成してきたシラバスに、グラフィックシラバスを同居させる形で作成を行うことを年度当初の職員会議で提案しました。教科会で検討を重ねながら進めているところで、毎年一層役立つものへと改善中の開発要素です。生徒に一層フィットしたものになるよう、教科会での議論を継続していく予定です。

また、生徒自身に年度最終段階において、1年間の授業を振り返って作成させることもできます。この取組は、学習成果の確認という評価の機能を持つことにもなります。内容を振り返って復習することになり、生徒の記憶に定着させることにつながります。「家庭基礎」「科学家庭」では、生徒が1年を振り返って作成するものを「マイグラフィックシラバス」と名付け、作成した図をグループ内でプレゼンする取組を行っています。今年度はクラスの時間数によりいくつかのクラスでの実践となりましたが、クラスによっては英語での表現にも挑戦したクラスもあり、「英語の日常使い」の一要素として活用することもできそうです。

グラフィック・シラバスの作成手順は下記の通りです。

①キーワードの書き出し

当該授業で重要であると考えられるキーワードを、付箋に書き出します。例えば、各回・各章のトピックスやテーマ、授業で扱う重要な概念、到達目標等です。この際、一枚に一キーワード書くようにします。

②配置する

付箋を白紙の上に並べます。その際、構造原理を意識しながら並べます。（例：順序性、同質性、優先順位性、因果関係）。付箋のキーワード同士を矢印で結ぶと構造が明らかになります。

③見出しづけ

同質の付箋を集めて丸で囲み、見出しをつけます。

④自己点検

「キーワード同士の関係がわかりやすく示されているか」「興味深く見てもらえるか」

「記憶に留まりやすいか」「学生にとって、自らの学習内容の把握に役立つか」といった点に留意しながら見直していきます。

このグラフィック・シラバスの活用方法について、再度年間を通してまとめてみます。本校家庭基礎では下記のような活用実践を行っています。

＊初回に提示する。

提示しながら授業を説明することで、生徒は授業全体を俯瞰できる。

＊ノートに貼付させる。

教師が授業の時々位置関係を確認させたり、生徒自身が必要な時に確認したりできる。

＊授業の最終段階で生徒に作成させる。

学習成果の確認ができ、総括的評価の一部にも位置付けることができる。

＊生徒自身が作成したものを、文章で説明させる。

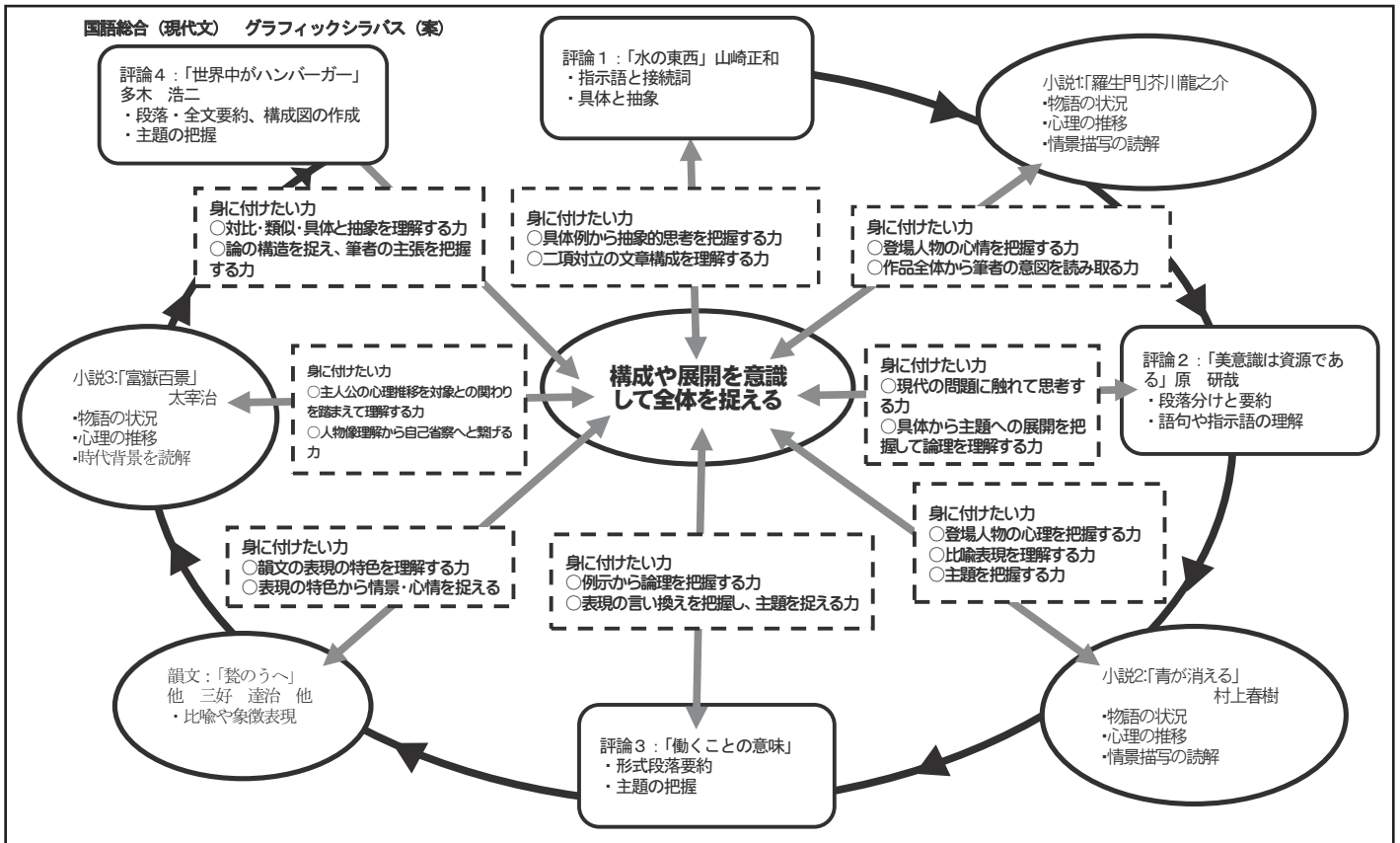
生徒はその内容を復習することになり、記憶に定着することができる。理数科においては、英語で説明することを課し、ALTに伝えることを試みた。

＊前年度生徒が作成したものを廊下に掲示する。

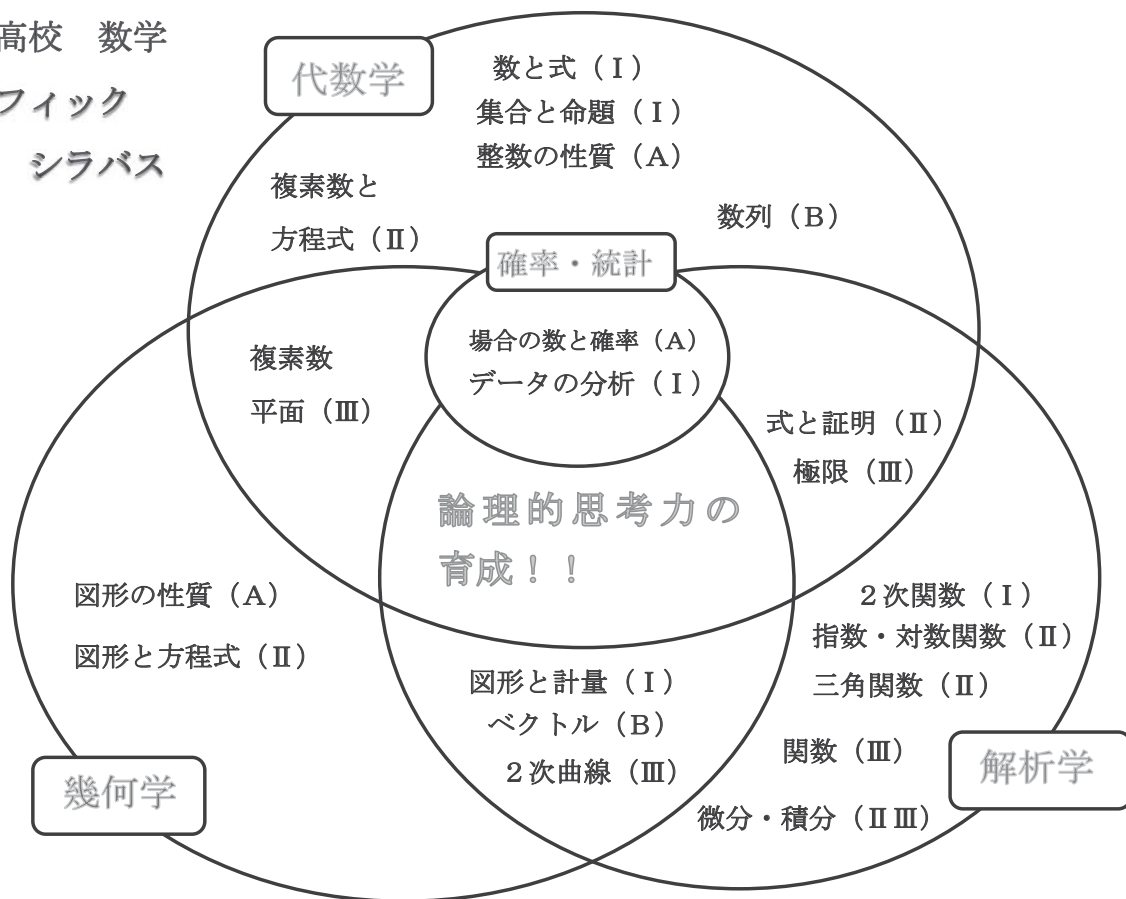
これから学習する内容について、新年度の生徒たちが授業の概要を知ることができ、授業の見通しをもつことができる。

ここでは、教師が各教科で作成検討中・活用中のグラフィックシラバスと、生徒が作成した「マイグラフィックシラバス」を掲載いたします。

3-1 教師作成例



第二高校 数学
グラフィック
シラバス



現代社会
(2単位)
1年生



小論文



新聞投稿



課題研究発表

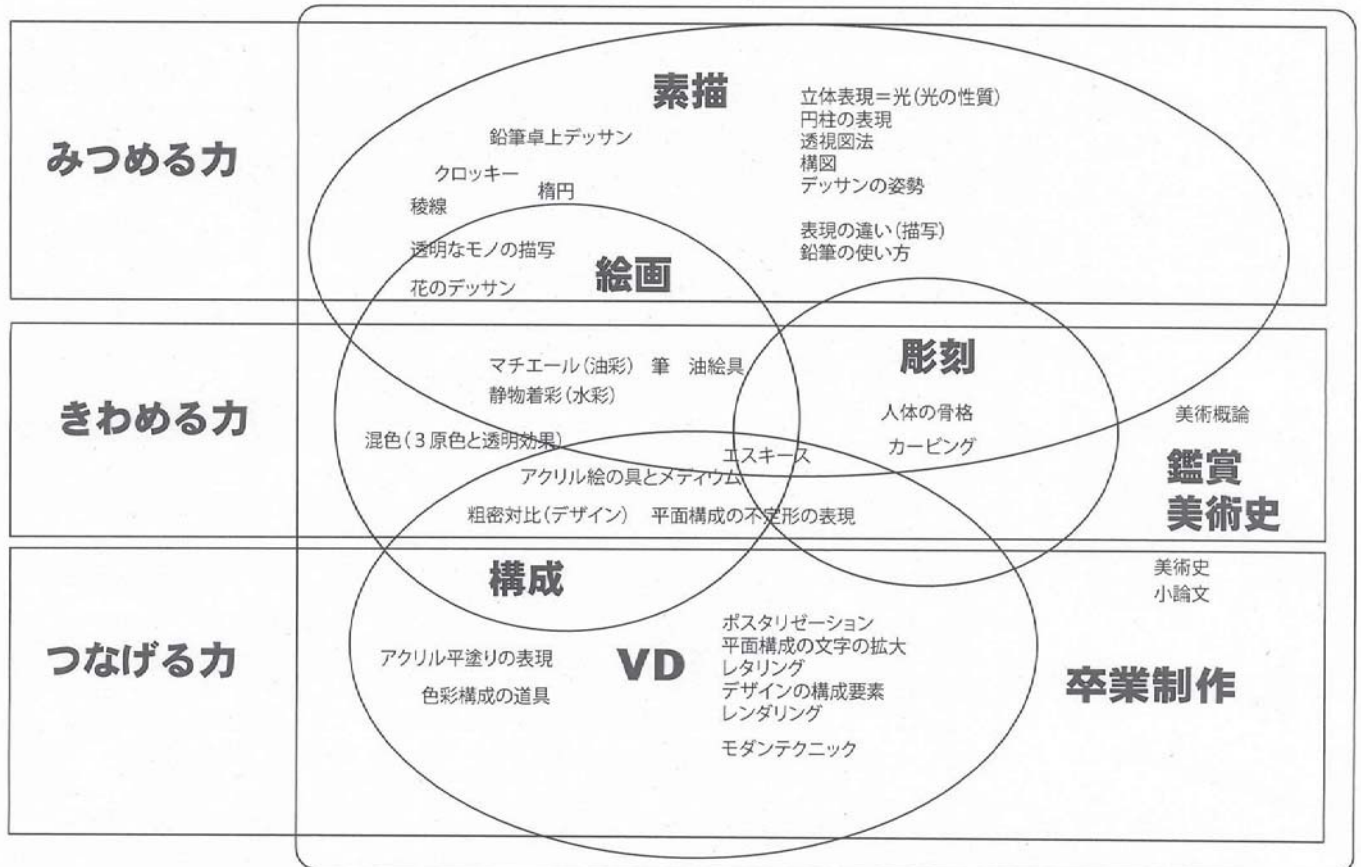


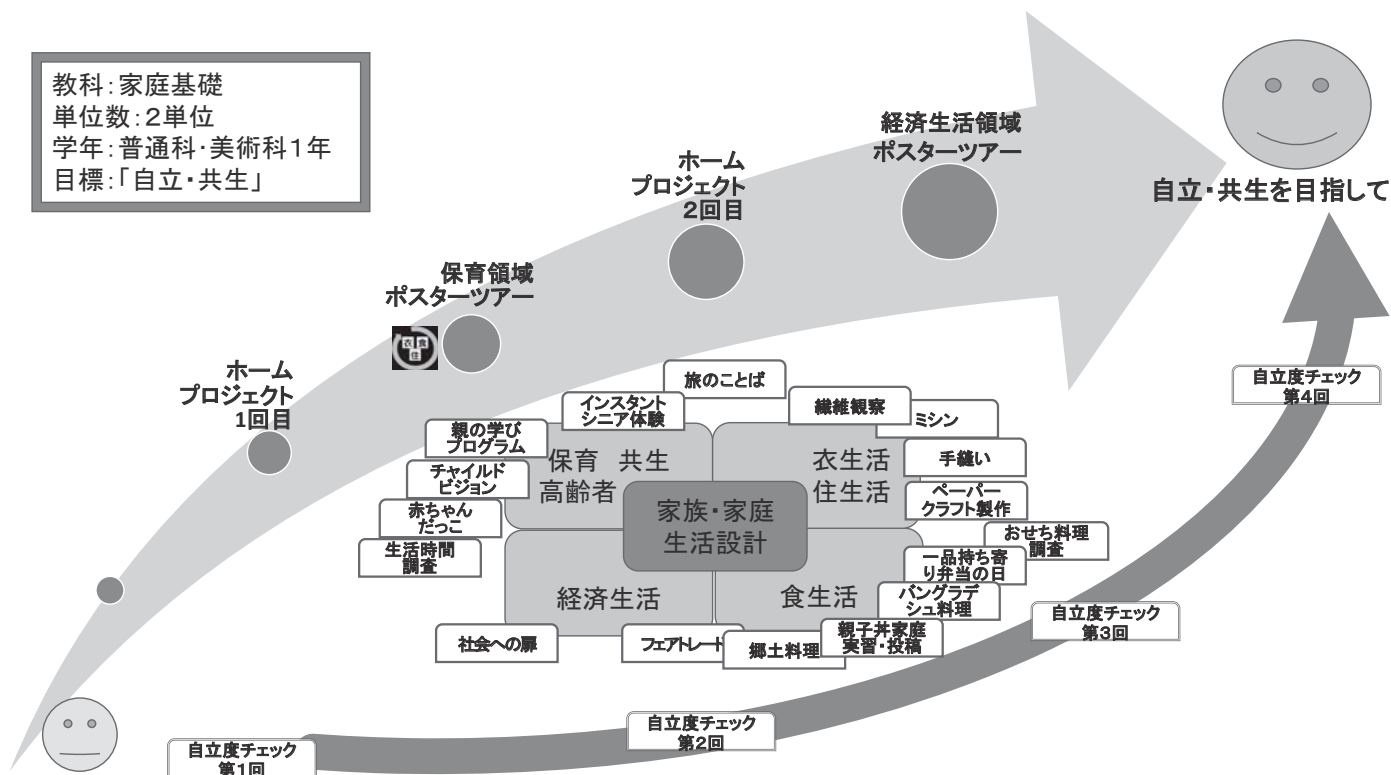
物理 3年間



青：1年次（2単位）、緑：2年次（3単位）、赤：3年次（4単位）

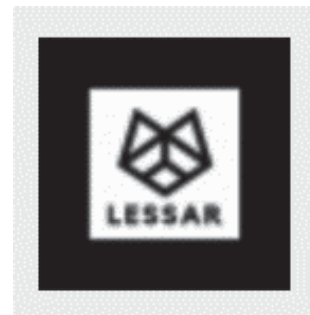
美術科グラフィックシラバス





家庭基礎・科学家庭 グラフィックシラバスムービー

①カメラで読み取る→②位置認証OK→③ARマーカーにかざす



好きな時に確認することができます

